

## 自由論題1 中国経済の実証分析

### 報告3

范丹（西南財経大学）

伍駿騫（西南財経大学）

「農外就業、大規模経営体と農地経営権の流転：空間計量経済モデルに基づいた実証分析」

中国において、農業の発展は農地の零細化という生産要素の制約と家庭請負制という制度的制約とを受けている。いかに農地経営権をスムーズに流転できるのかは、土地要素の配置を最適にし、適正規模経営の目標が達成できる必要条件となっている。農外就業と農業規模経営体は農地流転に重要な影響を与える。しかしながら、農地の流転には、空間的自己相関性が存在しているため、地域間の農地流転の相互的影響を除かないで議論すると、農外就業と規模経営体から農地流転に与えた影響を誤って結論付けられてしまう可能性もある。それゆえ、本論文は2014年中国M市に行った市内全域調査による243村のデータに基づき、空間計量経済モデルを用いて、農外就業と規模経営体数はいかに農地流転に影響を与えていることを明らかにする。分析結果は以下三つである。第一、Moran' I 指数の計算により高い値を示していることから、農地流転には空間的自己相関性が存在することを明らかにしている。第二、空間的自己相関を考量した上、空間ラグモデルによって分析したところ、外出農外就業の比率は農地流転規模に正の有意な影響を与えていることを明らかにした。外出農外就業が1%増加したところ、自地域の農地流転規模は11ムー（約73a）拡大する結果になる。そして、地元農外就業は負の有意な影響が存在することがわかり、1%増加すると、自地域農地流転規模は7ムー（約47a）縮小する結果にある。それと同時に、規模経営体数は明らかにプラスの影響を与えており、経営体1戸増加すると、10～36ムーの流転面積の増加が見られる。第三、本論文は空間自己相関を考慮しない回帰モデル推定量とSLM推定量と比較することで農外就業が農地流転に与える影響度を再評価することが分析結果から示唆される。